医療法人財団 医道会　十条武田リハビリテーション病院

リウマチ通信

Vol.34
平成30年11月号

リウマチ患者さんとワクチン

ワクチンには、大きく分けて『不活化ワクチン』と『生ワクチン』があります。『生ワクチン』は感染力を弱くしたワクチンで、接種するとその病気に自然にかかった状態とほぼ同じ免疫がつきます。そのため生物学的製剤（ＢＩＯ）や免疫抑制剤・ステロイドを使用しているリウマチ患者さんでは、感染してしまう可能性があるので『生ワクチン』は接種しないでください。

『生ワクチン』の代表的なものは、麻しん・風しん・おたふくかぜ・水痘・ＢＣＧなどです。

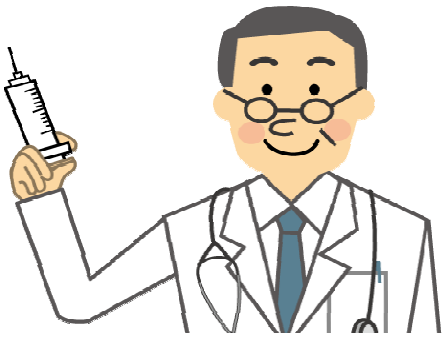
『不活化ワクチン』は、感染力をなくし免疫をつけるのに必要な成分だけをとりだしたものなので、生物学的製剤（ＢＩＯ）や免疫抑制剤・ステロイドを使用しているリウマチ患者さんでも接種することができます。

『不活化ワクチン』の代表的なものは、肺炎球菌・インフルエンザ・Ｂ型肝炎・日本脳炎などです。

肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌が原因で起こる肺炎や感染症を予防し、感染してしまった場合でも重症化を防ぎます。
接種時期は年間いつでもよく１回の接種で５年ほど免疫が持続するので、次回は５年以上あけて接種してください。
そのためにも、忘れないよう接種年月日を記録しておくことをおすすめします。
高齢者の方は接種費用の一部を公費で負担する定期接種が行われていますが、過去に１回でも接種されている場合は対象外になります。

インフルエンザワクチンについて

毎年、流行を予測し製造されており、接種することである程度の発症を予防して重症化することを防ぎます。接種後の免疫の持続は５ケ月程度といわれていますので、毎年接種が推奨されます。
インフルエンザワクチン製造の過程で鶏卵を使用しているので、鶏卵アレルギーの人は注意が必要です。
主治医の指示があれば、「肺炎球菌ワクチン」と「インフルエンザワクチン」の同時接種可能です。
リウマチ患者さんは、感染症のリスクが高いので、主治医と相談し体調をみてワクチン接種をしてください。

（　文責　薬剤師　大西　薫子　）